



TITLE:

京大上海センターニュースレター 第39号

AUTHOR(S):

京都大学経済学研究科上海センター

CITATION:

京都大学経済学研究科上海センター. 京大上海センターニュースレター 第39号. 京大上海センターニュースレター 2005, 39

ISSUE DATE:

2005-01-11

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/26356>

RIGHT:

京大上海センターニュースレター

第 39 号 2005 年 1 月 11 日

京都大学経済学研究科上海センター

目次

○上海センター講演会のご案内

○上海センター講演会・研究会「中国の自動車産業」のご報告

上海センター講演会のご案内

日時 2005 年 1 月 24 日 (月) 14:00～16:00

場所 京都大学百周年時計台記念館 2 階国際交流ホール

演題 「最近の中国事情と今後の日・米・中関係における日本の積極的役割について」

講師 日中経済貿易センター名誉会長 木村一三氏

木村氏は、1954 年に故高碕達之助氏の紹介で日中貿易に参画され、日中国交正常化にも民間人として尽力されました。日中交流の最古参として故周恩来首相から胡錦濤総書記にいたるまで、中国側有力者と親密な友人関係をもたれています。奮ってご参加ください。参加を希望される方は、北野(kitano@econ.kyoto-u.ac.jp FAX:075-753-3492)までご一報ください。

+++++

上海センター講演会・研究会「中国の自動車産業」のご報告

京都大学教授 塩地 洋

講演会 11 月 13 日(土)午後 2 時～6 時

丸川知雄 東京大学社会科学研究所助教授

中国式自動車製造法

嶋原信治 元トヨタ自動車中国事務所総代表

トヨタ自動車の進出過程

塩地 洋 京都大学大学院経済学研究科教授

中国における自動車流通

研究会 11 月 14 日(日)午前 9 時 30 分～午後 5 時

高山勇一 現代文化研究所中国研究室室長

自動車産業政策

孫 飛舟 大阪商業大学総合経営学部助教授

自動車交易市场について

山口安彦 元本田技研工業中国業務室主幹 中国自動車企業の自主開発能力

大原盛樹 アジア経済研究所研究員

オートバイ産業の競争環境

上山邦雄 城西大学経済学部教授

日系メーカーの対中国戦略

昨年 11 月 13 日および 14 日に京都大学上海センター主催の講演会と研究会が開催された。

講演会には約 150 名、研究会には約 100 名が参加した。報告者は、日本における中国自動車産業研究のトップレベルを占めており、最新のトピックも含めた情報価値の高い報告が相次いだ。そのため、参加者は大学研究者にとどまらず、自動車メーカー 6 社やトーマツ・コンサルティング、三井物産戦略研究所等のコンサル会社やシンクタンク、オートバイテル、J.D.パワー等の米国系の自動車流通企業、自動車部品メーカー、自動車ディーラー等の自動車関連企業も参加し、そうした中国ビジネスに関わる企業からの参加者が約半数を占めた。

講演会において、丸川報告は自動車メーカーと部品メーカーとの取引関係を一つの課題として緻密な分析結果が示された。嶋原報告ではトヨタ自動車が 1970 年代からいかに中国への進出を図ってきたのか、その具体的な経緯が紹介された。塩地報告では、いかに情報の非対称性が縮小しているのかという観点から中国における中古車流通の発展過程が明らかにされた。

研究会においては、より詳細な報告が続いた。高山報告では、現在の中国における自動車産業政策に対する最新の分析結果が示された。孫報告では、中国の自動車流通において、いわゆる 3S 店と交易市場との対抗関係が構造的に分析された。山口報告では、何故中国で自主開発が進まないのかについて、多面的な分析がなされた。大原報告では、オートバイ産業における企業間競争の構造が緻密に分析された。上山報告では、主要日本自動車メーカーの対中進出の歴史過程が詳細に明らかにされた。

総じて、現在の日本国内において、中国自動車産業の講演会・研究会としては最も質の高い報告が相次いだといえる。今年成功を踏まえて、来年も同様のテーマで上海センターがシンポジウムを開催することが提案された。